

(別紙様式)

都道府県番号	22
都道府県名	静岡県

()
該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

榛原町立榛原中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	7	7	8	1	23	35
生徒数	258	280	304	4	846	

・実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

<p>・主題(テーマ) 学校教育目標「こころざしを育てる」の実現のために、教育活動の支柱のひとつとして、「自ら学ぶ力」の育成(教科学習を重視)を掲げ、「確かな学力」の向上を目指す。</p> <p>・テーマ設定の趣旨 仮説 「学力のおさえ」「実践のための具体的な方策」を明確にして、授業実践を行うことにより、「学力の向上」が図られる。</p>
--

・実践研究の内容について(選択した観点を中心に記述)

() 研究体制の工夫

(1) 研究体制

- ・ 自学部...研修主任・教科指導主任・教科指導担当
- ・ 学力向上スタッフ...校長・教頭・教務・研修主任+各教科主任10人・事務主査

(2) 研究組織図



() 実践研究の内容

(1) 実施学年・教科

- ・ 2学年数学

習熟の程度に差が出やすい教科・学年であり，当該教科に関する研究実績がある。

・全学年全教科

基礎・基本の定着や個性伸長のために、個に応じた指導法の工夫や教材の開発を行う。

・2，3学年選択教科

興味や関心、習熟の程度に応じるために、複数コースを設定

(2) 定期的な学力調査の実施(年4回)

(3) 単元ごとに行う均等集団学習と習熟度別学習におけるそれぞれの定着度調査

() 成果と課題

(1) 成果

・各教科部で「学力」と「学力向上のための具体的な方策」の共通認識ができ，研究方向が明確化した。

・2年数学における「連立方程式」の習熟度別学習実施前後の定着度調査(6点満点)の正答得点の変化

発展コース	5.38点	5.53点
-------	-------	-------

習熟コース	3.45点	3.83点
-------	-------	-------

補充コース	1.62点	2.54点
-------	-------	-------

・2年数学における「図形領域」での習熟度別学習実施前後の定着度調査の正答率の変化

発展コース	28.0%	69.4%
-------	-------	-------

習熟コース	27.3%	81.8%
-------	-------	-------

補充コース	3.3%	81.7%
-------	------	-------

・単元の中で，均等割集団と習熟度別集団に編成をかえた学習が可能である。

アンケート『習熟度別学習実施によって学力が向上した』と思う生徒の割合

発展コース	82.4%
-------	-------

習熟コース	81.3%
-------	-------

補充コース	77.7%
-------	-------

・習熟度別学習を実践するために、つきたい力を明確に設定し，それに合った教材や指導法の研究を深く行うようになった。

(2) 課題

・学力向上の検証の仕方

・学習集団と生活集団の違いによる指導の難しさ

・基礎学力の定着の低い生徒への補足的な個別指導

() 成果の普及方策

(1) 研究会...日時；平成15年11月10日(月)午後 場所；榛原町立榛原中学校

テーマ；主体的に学ぶ生徒の育成 ～「確かな学力」の向上をめざして～(仮題)

対象；榛原郡内教職員，保護者，県内フロンティアスクール職員等

(2) HPによる研究内容の発信(<http://www.haijhs.haibara.shizuoka.jp/>)

() その他(その他、特色ある取組がある場合に記入) などを記述

・習熟度別実態調査、選択教科アンケート等各種実態調査の実施